



GENDAI AGENCY Inc.

ゲンダイエージェンシー株式会社

2023年10月13日

2024年3月期 第2四半期決算説明資料

2024年3月期 第2四半期決算のポイント

- ◆ 売上高、売上総利益は、前年同期比で微増
- ◆ 需要の回復を見据えた人的資本への投資や営業活動強化により販管費が増加し、営業利益は前年同期比で減少
- ◆ 経常利益の減少は、前年同期に計上した為替差益(一過性)が主要因
- ◆ 紙媒体→インターネット広告へシフト
売上高に占めるインターネット広告が折込広告を超過
- ◆ ・パチンコホール広告分野については、未だ設備投資先行により、需要は横ばい
・パチンコホール以外の広告分野は堅調に推移

2024年3月 第2四半期業績の状況(対前期比)

(単位:百万円)

	前第2四半期		当第2四半期		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	3,805	100.0%	3,913	100.0%	107	2.8%
(参考)総取扱高※	4,170	-	4,394	-	223	5.4%
売上総利益	1,151	30.3%	1,173	30.0%	21	1.9%
営業利益	223	5.9%	203	5.2%	-20	-9.0%
経常利益	251	6.6%	208	5.3%	-42	-16.8%
親会社株主に帰属する四半期純利益	202	5.3%	159	4.1%	-43	-21.5%

※総取扱高は、代理人取引を取引総額で計上したものです。

> 結果

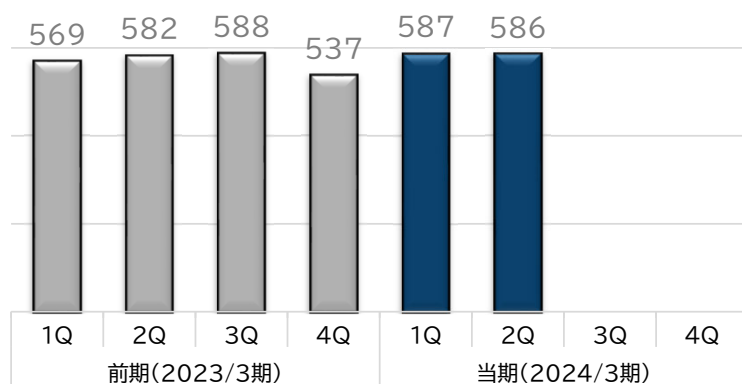
- ◆ 売上高、売上総利益は微増
- ◆ 営業利益以下は減少

> 要因

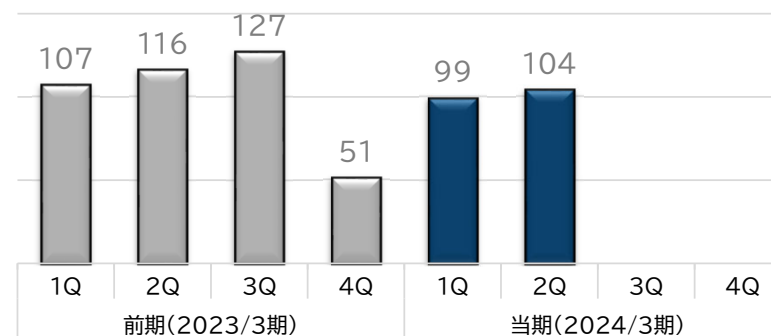
- ◆ パチンコホール広告は概ね横ばい、パチンコホール以外の広告分野の顧客開拓、取引深耕を推進
- ◆ 主として期首の人員増、賃上げ等による人件費増、営業活動強化による販売費増
- ◆ 経常利益の減少は、前年同期に計上した為替差益(一過性)が主要因

四半期 売上総利益・営業利益の状況(対前期比)

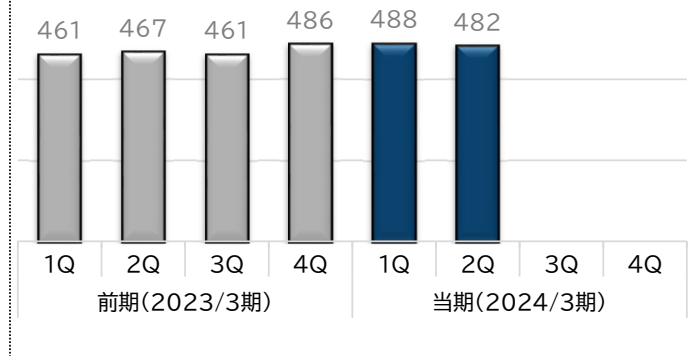
四半期 売上総利益(百万円)



四半期 営業利益(百万円)



【参考】四半期 販管費(百万円)



- ◆ 売上総利益は前年同期比で概ね横ばい
- ◆ 人員増、賃上実施等による人件費負担増に加え、営業活動強化による販売費増加により販売費及び一般管理費は増加
- ◆ 結果、営業利益は前年同期比で減少

事業の種類別セグメントの状況

【当累計期間】

	広告事業	不動産事業	その他	調整額	(単位:百万円) 連結
売上高	3,867	41	4	0	3,913
セグメント利益	322	19	-2	-136	203

【前年同期比】

	広告事業	不動産事業	その他	調整額	(単位:百万円) 連結
売上高	+94	+15	-2	-	+107
セグメント利益	-13	+9	-3	-12	-20

- ◆ 広告事業はパチンコホール以外の分野が増加
- ◆ 不動産事業はパチンコホール跡地の売買仲介等に伴う手数料収益計上により、昨対で大きく増加
- ◆ 販売費及び一般管理費の増加によりセグメント利益は減少

セグメント損益(広告事業)

広告事業	前第2四半期	当第2四半期	(単位:百万円) 前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	3,773	3,867	94	2.5%
(参考)総取扱高※	4,138	4,348	210	5.1%
セグメント利益	336	322	-13	-3.9%

※総取扱高は、代理人取引を取引総額で計上したものです。

外部環境>

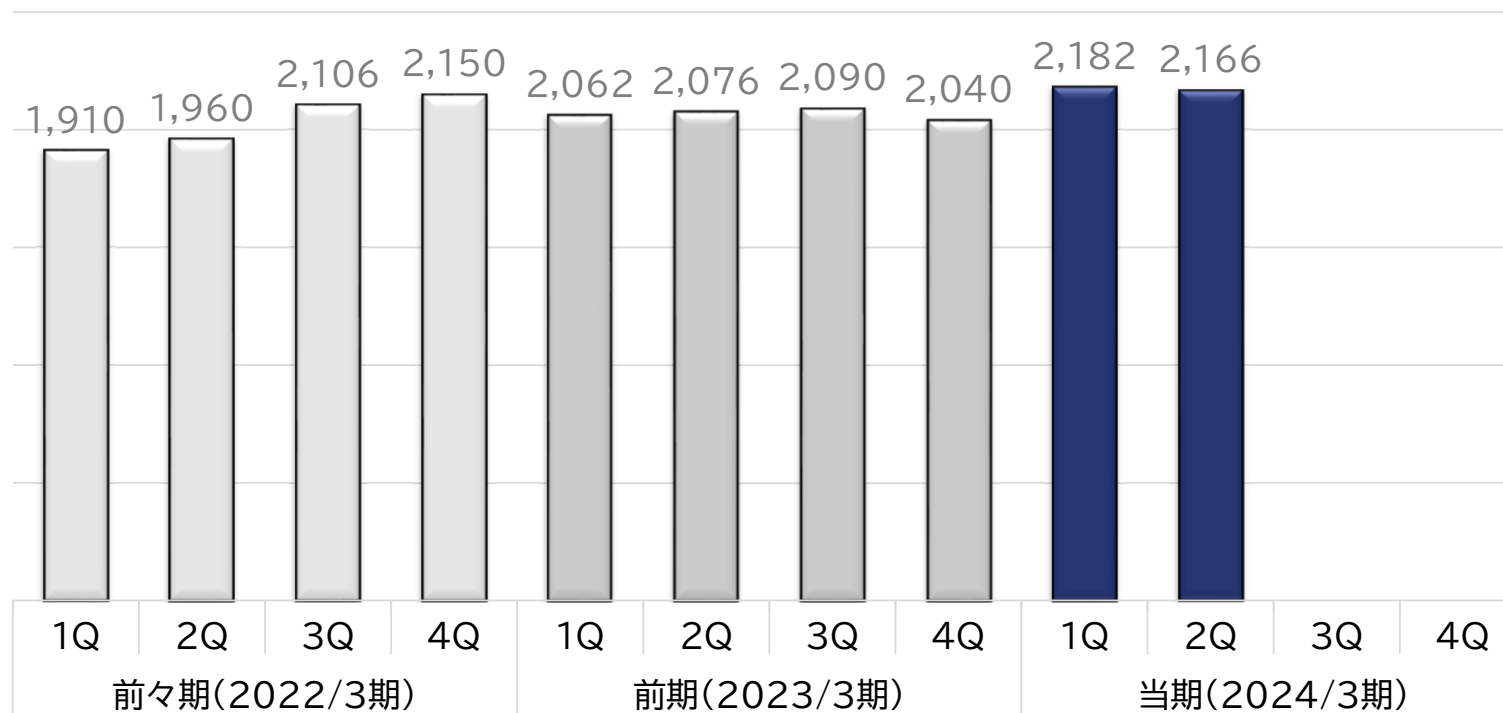
- ◆ パチンコホール施設:
投資資金確保のため、広告費抑制は継続
- ◆ パチンコホール以外の広告分野:
広告需要は増加基調

当社グループの取り組み>

- ◆ パチンコホール広告の最大化
- ◆ 広告需要の伸びが期待されるセクターにおける顧客開拓をより積極的に推進

【参考】四半期総取扱高の推移(広告事業)

広告事業 四半期総取扱高の推移(百万円)



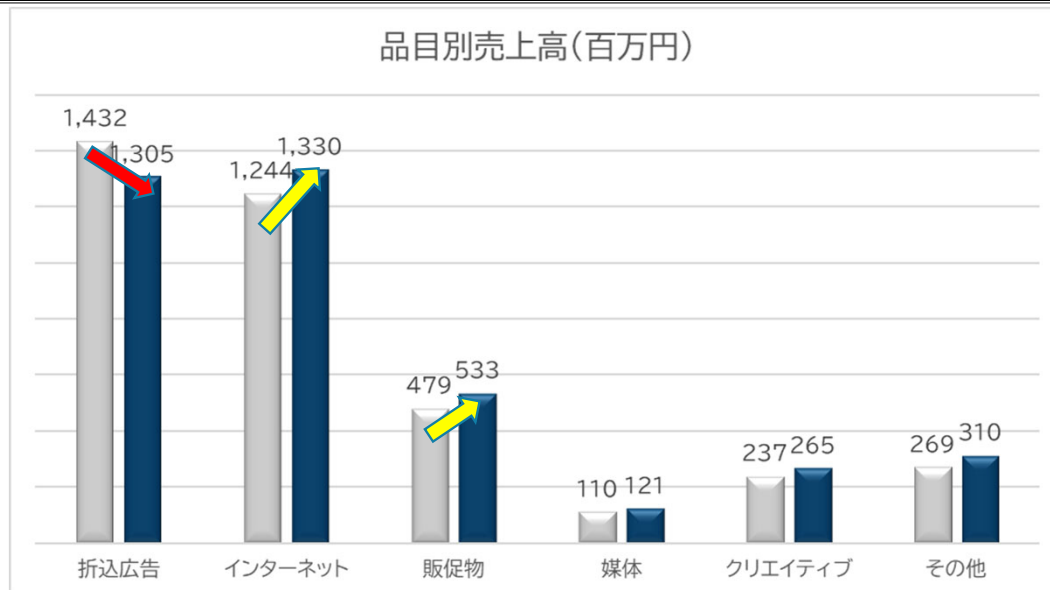
※総取扱高は、代理人取引を取引総額で計上したものです。

- ◆ パチンコホール広告分野は概ね横ばい
- ◆ パチンコホール以外の広告分野は堅調に推移

品目別売上高の状況(広告事業)

(単位:百万円)

	前第2四半期		当第2四半期		前年同期比		
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率	構成比変動
折込広告	1,432	38.0%	1,305	33.8%	-127	-8.9%	-4.2 pt
インターネット	1,244	33.0%	1,330	34.4%	86	6.9%	1.4 pt
販促物	479	12.7%	533	13.8%	54	11.2%	1.1 pt
媒体	110	2.9%	121	3.2%	11	10.9%	0.3 pt
クリエイティブ	237	6.3%	265	6.9%	28	11.7%	0.6 pt
その他	269	7.1%	310	8.0%	41	15.3%	0.9 pt
合計	3,773	100.0%	3,867	100.0%	94	2.5%	



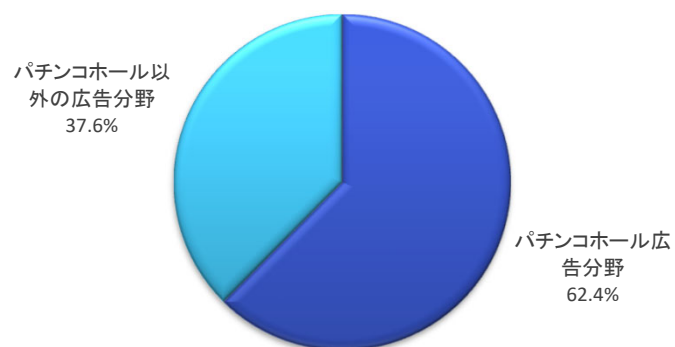
- ◆ 折込広告は引き続き減少トレンド
- ◆ インターネット広告は堅調に推移し、折込広告を上回る
- ◆ パチスロ話題機種種の導入により販促物が増加

業種別総取扱高の状況(広告事業)

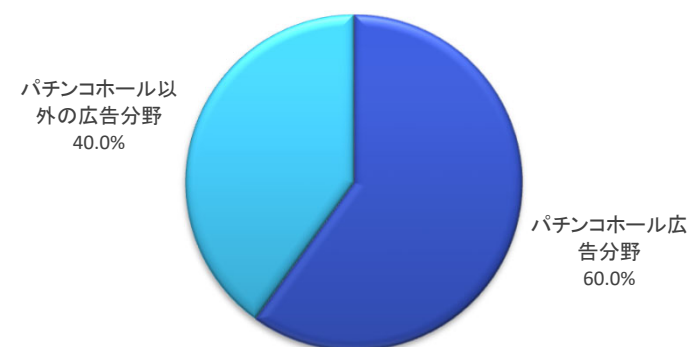
(単位:百万円)

	前第2四半期		当第2四半期		差異	
	金額	構成比	金額	構成比	差異額	増減率
パチンコホール広告分野	2,583	62.4%	2,607	60.0%	24	0.9%
パチンコホール以外の広告分野	1,555	37.6%	1,741	40.0%	186	12.0%
合計	4,138	100.0%	4,348	100.0%	210	5.1%

前第2四半期



当第2四半期



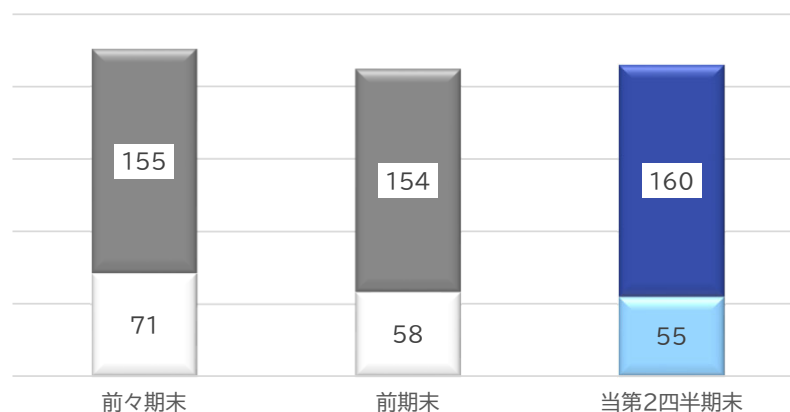
- ◆ パチンコホール広告分野は前年同期比で概ね横ばい
- ◆ パチンコホール以外の広告分野は引き続き順調に増加

従業員の状況

(単位:人)

	前々期末	前期末	当第2四半期末	前期比増減
営業・管理【販管費】	155	154	160	6
クリエイティブ【売上原価】	71	58	55	-3
広告事業計	226	212	215	3

広告事業 人員数の推移(人)



- ◆ 営業・管理 : 需要の回復を見込んだ販売強化のため増員
- ◆ クリエイティブ: 紙媒体広告需要の減少により新規採用を抑制

セグメント損益(不動産事業)

不動産事業	前第2四半期	当第2四半期	(単位:百万円) 前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	25	41	15	61.2%
営業費用	15	22	7	46.7%
セグメント利益	10	19	9	88.2%

◆ 所有する千葉県柏市の土地の賃貸収益のほか、パチンコホール跡地の売買仲介等に伴う手数料収益14百万円を計上

◆ 結果、売上高は41百万円(前年同期比61.2%増)、セグメント利益は19百万円(前年同期比88.2%増)

連結貸借対照表

	前期末 (A)	当第2四半期末 (B)	(単位:百万円) 差額 (B)-(A)	
現金及び預金	3,735	3,538	-196→ 自己株式の取得等による減少
売上債権	988	1,018	30	
有価証券	-	60	60	
その他流動資産	122	81	-41	
有形・無形固定資産	714	707	-6	
投資その他資産	495	308	-186→ 預託金の返還による減少
資産合計	6,056	5,716	-340	
買掛金	555	519	-35	
短期・長期借入金	850	706	-143→ 返済による減少
未払法人税等	59	49	-10	
その他の負債	202	204	1	
負債合計	1,667	1,479	-187	
株主資本	4,385	4,224	-161	
その他	3	12	9	
純資産合計	4,389	4,236	-152→ [
負債・純資産合計	6,056	5,716	-340	・当四半期純利益+159百万円 ・自己株式の取得△218百万円 ・利益配当△102百万円

連結キャッシュフロー

		(単位:百万円)			
		前第2四半期	当第2四半期		
税引前利益	251	211			
営業活動によるキャッシュ・フロー	164	159	+ 税引前利益	211	
投資活動によるキャッシュ・フロー	-32	106	+ 減価償却費	25	
財務活動によるキャッシュ・フロー	-545	-464	+ 法人税等の還付額	38	
現金及び現金同等物の期首残高	3,978	3,729	+ その他	18	
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,586	3,532			- 売上債権の増減額
					37
					- 仕入債務の増減額
					35
					- 法人税等の支払額
					54
					- その他
					9
				営業活動によるキャッシュ・フロー	159
				+ 預託金の返還による収入	176
				+ その他収入	9
				- 有価証券の純増減額	50
				- 有形/無形固定資産の取得による支出	27
				投資活動によるキャッシュ・フロー	106
				- 借入金返済による支出	143
				- 自己株式の取得による支出	218
				- 配当金の支払額	102
				財務活動によるキャッシュ・フロー	464

連結業績予想進捗状況

(単位:百万円)

	業績予想※	当第2四半期実績	進捗率
売上高	8,000	3,913	48.9%
営業利益	500	203	40.6%
経常利益	500	208	41.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	400	159	39.8%

◆ 当第2四半期連結会計期間の業績は、当初計画を若干下回って推移しているものの、現時点における通期連結業績予想の修正はなし。

- ◆ パチンコホール広告分野
営業店舗数の大幅減少(マーケットサイズ縮小)は懸念材料
有力店舗の需要については緩やかな回復を想定
通常の年末商戦需要に加えて、話題機種投入と告知需要の増加を期待

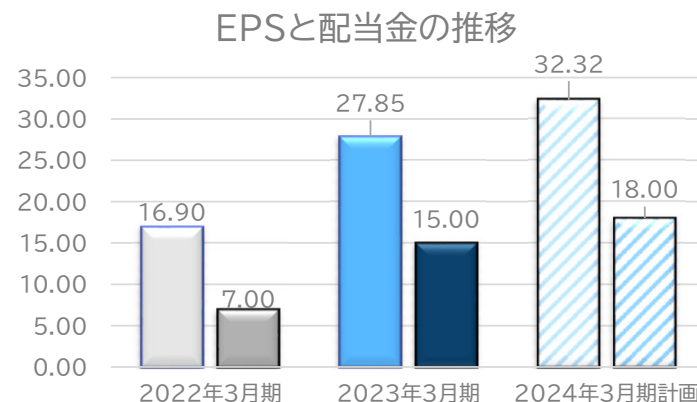
- ◆ パチンコホール以外の広告分野
フィットネス、住宅関連、公営競技、学習塾等の特定セクタに注力
引き続き、営業活動の強化、新規取引先の開拓と既存取引先の拡販を推進

- ◆ 販売戦略
(これまで)クライアントのインターネット広告シフトに対応
→インターネット広告取扱高は、主力であった折込広告と逆転
(これから)インターネットと紙媒体の融合による広告サービスの最適化
 - ・インターネット:キーワード単価の上昇や競争激化、各種規制の強化
 - ・紙媒体:ポスティング広告等に商機、これまでの紙媒体広告ノウハウの活用

株主還元について

		2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期計画
連結EPS	円	16.90	27.85	32.32
年間配当金	円	7.00	15.00	18.00
(うち中間配当)	円	(3.00)	(7.00)	(9.00)
配当性向	%	41.4%	53.9%	55.7%
配当総額※1	百万円	44	148	—
※1 配当総額は期中支払額				
期中自己株式取得額	百万円	449	310	218
期中取得自己株式数	株	1,350,300	900,000	499,700
期末発行済株式総数※2	株	13,699,700	12,799,700	12,300,000

※2 期末発行済株式総数は自己株式を除いて算定しております。



【株主還元に関する基本方針】

- ・目標配当性向は、当面50%を目安
- ・資本効率の向上を重視し、適切なタイミングにおいて自己株式を取得

◆ 当期における株主還元

- ・当期の中間配当は1株当たり9円で決定
(通期で合計18円を予定)
- ・当第2四半期までの自己株式取得金額
218百万円

自己株式の消却に関して

◆ 2023年8月25日開催の取締役会において、会社法第178条の規定に基づき、自己株式を消却することを決議いたしました。

消却の内容

(1) 消却する株式の種類	当社普通株式
(2) 消却する株式の数	499,700株(消却前の発行済株式総数に対する割合 3.90%)
(3) 消却日	2023年9月8日

(ご参考)

消却後の発行済株式総数	12,300,000株
消却後の自己株式数	一株

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の情報に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

・IR窓口 管理部 Tel.03-5358-3334